

考える力を育てる

基礎学力をしっかりと身につけて、自分で考えて行動することが、これからの社会で生きる力になります。

こどもクラブ 専務取締役 相原 貴海

4月から新学期の授業が始まりました。

近年、「読み・書き・計算」の基礎学力が低下傾向にあるため、基礎学力の定着が重要視されています。

「読み・書き・計算」はすべての学習の基礎になります。1〜3年生の基礎学力が4〜6年生で習う勉強の土台になり、さらにその基礎学力が中学校の勉強で必要になります。つまり4年生から中学校の準備が始まっています。

低学年の基礎学力が身につけていないと学年が上がるにつれて、どんどん授業内容がわからなくなります。基礎学力を身につけるために、まずは学習習慣を身につけましょう。

生活に役立つ計算力

子どもにも学習習慣を身につけるには、最初に「学ぶことは楽しい」と実感させてあげることが大切です。「勉強なんてつまらない」「勉強はいや」と思っている子には、まずその概念を取りはらうために、いろいろな学びが日常生活で役に立っていることを教えてあげましょう。例えば「家

族4人にあめを2個ずつ配る時、全部で何個必要な？」

「6個のケーキを3人で分けると、一人何個食べられるかな？」など日常生活の中にくさんの算数が隠れていることがわかると「勉強ってこうして役に立つんだ」「算数っておもしろいかもじゃない」と気づくきっかけになります。学習習慣を身につけるうえで大切なことは、親が子どもの発達段階や習得状況を知ることです。

学習習慣を身につけるポイント

■整理整頓をする

今日やらなければならない学校や塾の宿題の量が一目で見てわかるように、2つの箱を用意して、「これからやるプリントの箱」と「終わったプリントの箱」に分けましょう。全体の勉強量がわかると、どのくらいのペース配分でやればいいのか、子ども自身もだんだんわかってきます。

■計画を立てる

子どもと話し合いながら、勉強する範囲の目標を決めましょう。できなかった時は、なぜできなかったのかを話し合い、量を見直すことも大切

です。やるべき量をあいまいにしないことが大事です。

■覚えたかを確認する

親が〇つけや小テストをしてわからないところを確認しましょう。「覚えた」といっても実際に書けなかったり、わかる問題だけやって勉強したつもりの人が結構います。

■間違いに×をつける

「間違いは宝」です。間違いには×を付けさせて、どうして間違ったか、明確にすることが大切です。「勉強する時間が足りなかった」「勘違いした」「根本にわかっていなかった」など原因を分析できるようにすると、自分の具体的な勉強法がわかってきます。

■取り組む姿勢をほめる

低学年はやればやっただけ成果がわかりやすい時期です。暗記ができていて、なぜ？どうしてを追及している、さぼりたい気持ちに負けないでがんばれた、などその子なりの努力の過程をほめてあげましょう。少しずつ一人学習ができるようになります。

AI時代に必要な読解力

近い将来、日本はAI（人工知能）の発達により業務が効率化されて、行政などの各種



専務取締役 相原 貴海

登録の手続き・空港のチケット購入など、コンピュータのガイダンスに従って自分で操作することになります。そうなるとガイダンスの説明文を正しく理解して手続きしなければ完了とならないため、まさに読解力が重要です。漢字が読めない、「それを」は何を差しているのかわからないと、何も登録できない、何も買えない、という状況になります。すでに昨年度7割の大学の受験システムも「紙の願書」から「インターネット出願」に変わり、高校生がガイダンスによる手続きを行っています。

ローマは一日にしてならず

「ローマは一日にしてならず」という中世ヨーロッパの古いことわざを「教育」に例えることができます。ローマ帝国が長い年月をかけて築かれたように、「子どもの可能性（未来像）」は、長い年月の努力の積み重ねで、限りなく大きくなります。今、できていないこともくり返し勉強していると必ずできるようにになります。

将来のなりたい自分を目指して、一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。